

IRだより

～ I R（INSTITUTIONAL RESEARCH）の“今”を分かり易くお届け～

研究年報、学生支援年報 も相次いで完成

教育年報の完成に引き続き、12月上旬には研究機構が製作した「研究年報2022」が、1月中旬には、学生生活支援機構が製作した「学生支援年報」がそれぞれ完成しました。「学生支援年報」は、今回が初めての刊行となります。

各機構が年報を製作することを通して、年度ごとの振り返りを行い、その歩みを年報として残すことで、本学の内部質保証のたゆまぬ取り組みを実証することになります。

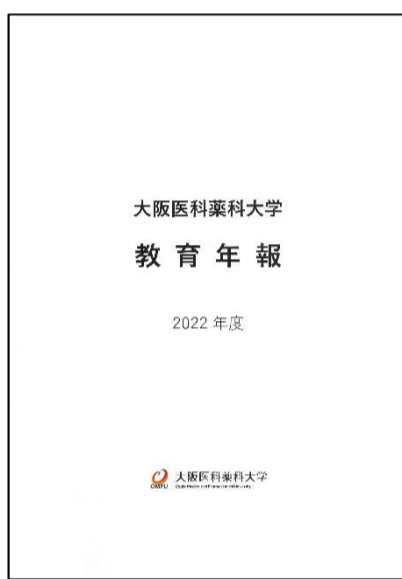
各機構の年報の整備が進むことで、本学の内部質保証そのものの更なる質の向上が期待されます。



研究年報2022

教育年報（2022年度）完成

3学部、事務担当者の皆様のご協力の下、製作が進んでおりました教育年報2022年度が、11月に無事完成致しました。



教育年報（2022年度）

教育年報は、教育の質保証機能強化の一環として、アセスメントポリシーに沿って、その各項目について、PDCAサイクルが機能していることを検証することをその刊行の目的としており、2022（令和4）年度の実績に基づいて作成されました。

過去2年間の反省点やノウハウを踏まえ、様式や分量、必要となるデータの種類・内容等について、当室及び各学部のご担当の方々がそれぞれ経験を活かしつつ作成を進めて参りました。また、今回は編集期間の短縮を図り、11月中旬に完成させることができました。

A4版138頁でPDF版を関係各位に配信すると共に、教学関係の主要部署には冊子版を配付しております。

なお、作成にご協力いただきました各学部及び事務担当者の皆様には、御礼を申し上げますと共に今後ともご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

令和4年度改訂版

医学・薬学教育モデル・コア・カリキュラムが来年度から施行

令和4年度に医学及び薬学教育のモデル・コア・カリキュラムが改訂され、全国の医学部及び薬学部では令和6年度の入学者から、新しいカリキュラムによる教育を実施することが予定されており、医学部と薬学部で準備が進められています。

基本理念

今回の改訂では、医学・歯学・薬学教育の3領域で統一した「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」というキャッチフレーズが採用されています。

医療人として求められる基本的な資質・能力

医療人として求められる基本的な資質・能力は、専門分野に関わらず共通しているとして、今回の改訂では、「求められる基本的な資質・能力」に関して原則として医学・歯学・薬学の3領域で共通化されました。新たな資質・能力として「総合的に患者・生活者を見る姿勢」、「情報・科学技術を活かす能力」の2つが加えられています。

医学、薬学それぞれのモデル・コア・カリキュラムの概要につきましては裏面の記事をご覧ください。

編集後記

「IRだより」第10号は、第1面では、教育年報、研究年報、学生支援年報の完成、医学・薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版の施行について、第2面では同カリキュラムの概要についてお届けしました。

次号第11号は4月のお届けを予定しております。

IRだより 2024年1月号（第10号）

発行年月日：2024年1月1日

発行者：大阪医科薬科大学

編集：大阪医科薬科大学IR室

医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版の概要

改訂の基本方針

医学・歯学・薬学教育の3領域で統一した基本理念に加えて、医学・医療をとりまく社会の変革や科学技術の進歩などを考慮にいたした「医師として求められる基本的な資質・能力」は、生涯にわたり研鑽して獲得する、医療人としての資質・能力と位置付けて、将来の医師像を明確に示しました。具体的には、以下の7項目が「改訂の基本方針」として示されています。

1. 20年後以降の社会も想定した医師として求められる資質・能力の改訂
2. アウトカム基盤型教育のさらなる展開(学修目標の再編成と方略・評価の整理)
3. 医師養成をめぐる制度改正等との整合性の担保に向けた方略の検討
4. スリム化の徹底と読み手や利用方法を想定した電子化
5. 研究者育成の視点の充実
6. 根拠に基づいたモデル・コア・カリキュラムの内容
7. 歯学・薬学教育モデル・コア・カリキュラムとの一部共通化

医師として求められる基本的な資質・能力

医師が生涯にわたって研鑽を積む必要がある「医師として求められる基本的な資質・能力」は以下の10項目です。

1. プロフェッショナリズム
2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢

3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
4. 科学的探究
5. 専門知識に基づいた問題解決能力
6. 情報・科学技術を活かす能力
7. 患者ケアのための診療技能
8. コミュニケーション能力
9. 多職種連携能力
10. 社会における医療の役割の理解

資質・能力ごとの記載へと改変した学修目標

従来、科目・教科の順次性に沿ったモデル・コア・カリキュラムであったものが、アウトカム基盤型教育の考え方に則った資質・能力ごとの記載へと改められました。また、「学修目標」、「学修方略・評価」は、それぞれ資質・能力に紐付けた記載とされました。この点は、今回の改訂で、最も大きな変更点であり、これにより、旧版でのA～Gの構造は発展的に解消されました。

本学医学部でも、この「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」に沿って2024年度入学者カリキュラムを策定しています。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版の概要

改訂の基本方針

医学・歯学・薬学教育の3領域で統一した基本理念に加えて、生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を掲げた学修成果基盤型教育(OBE)を柱として、従来のコアカリの深化を図り、薬学教育の質保証の観点から改革を進めることが企図されています。具体的には、以下の6項目が「改訂の基本方針」として示されています。

1. 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育内容
2. 生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開
3. 各大学の責任あるカリキュラム運用のための自由度の向上
4. 臨床薬学という教育体制の構築
5. 課題の発見と解決を科学的に探究する人材育成の視点
6. 医学・歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの一部共通化

薬剤師として求められる基本的な資質・能力

薬剤師が生涯にわたって研鑽を積む必要がある「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」は以下の10項目です。

1. プロフェッショナリズム
2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
4. 科学的探究
5. 専門知識に基づいた問題解決能力
6. 情報・科学技術を活かす能力

7. 薬物治療の実践的能力
8. コミュニケーション能力
9. 多職種連携能力
10. 社会における医療の役割の理解

概念化された学修目標

令和4年度改訂コアカリは、以下の7つの大項目から成り立っています。

- A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力
- B 社会と薬学
- C 基礎薬学
- D 医療薬学
- E 衛生薬学
- F 臨床薬学
- G 薬学研究

上記のB～Gの大項目には合計342の「学修目標」が記載されており、これらがコアカリの本体の部分にあたります。平成25年度改訂版では学修すべき事項として総数1073項目の到達目標(SBOs)が網羅的に記載されていましたが、今回の令和4年度改訂版では概念化した「学修目標」に改められました。すなわち、多くの具体的事実を覚えるだけでなく、それらに共通する特徴や相違点を考え、概念化した上で新たに直面する課題や問題点の解決に活かせる総合的な学力を身に付けることが求められています。

本学薬学部でもこの新コアカリの理念に基づいた学修成果基盤型教育を実践していくため、令和6年度入学生から適用する新たなカリキュラムの編成作業を進めているところです。

(薬学学務部教務課)